間伐材を利用した山腹工施工による環境保全

【施策の概要】

従来は、山腹工の代表的な工法として一般的にフリーフレーム法枠やL型擁壁等のコンクリート製品をを用いていましたが、外ヶ谷山腹工事においては、材料単価が安価で施工も容易な間伐材を利用することにより、コストの縮減を図るとともに資源の有効利用と周辺環境の調和に努めました。

【施策のポイント】

- 材料に安価な間伐材を使用するため、従来のコンクリートを使用した工法に対し工事費の縮減が図られます。
- これにより、本工事では従来工法に比べ約25％の工事コストの縮減が図られました。
- 間伐材は、従来工法と比較して耐久性に劣り腐植するため、確実な緑化復元が必要ですが、緑化復元後は周辺環境と調和し、自然にやさしい工法です。
- 間伐材を積極的に利用することで、適正な森林の管理が促進されるとともに、流域の環境が保全されます。

【施策の実施状況・イメージ図】

山腹工施工面積　　1820m2

間伐材使用量　　45m3

スギ材　φ10cm

L＝3～4m　1500本

北陸地方整備局　神通川水系砂防工事事務所　外ヶ谷山腹工事
中部地方整備局　　天竜川上流工事事務所　鹿塩川山腹工事
近畿地方整備局　　木津川上流工事事務所　青蓮寺川山腹工事等
計45件(H12　48件）で実施